



私もTantan!

語り部でありガイド役。

赤平の炭鉱と歴史を見守る「TANTan」とは？

2003年、アジアで初開催となる国際鉱山ヒストリー会議が、赤平市で開催された。市内にある炭鉱遺産が、世界中の鉱山や産業遺産の専門家から注目を浴びたことを機に、これらをもっと活用していこうという気運が生まれる。そうして生まれたのが、元炭鉱マンを中心とした赤平コミュニティガイドクラブTANTanだった。

「炭鉱遺産には、赤平の歴史や文化がつまっています」と代表の三上秀雄さん(写真左から3人目)。TANTanを結成してからしばらくは、申込のあったときだけ立坑や炭鉱施設などのガイドをしていたという。しかし、申込を待つだけでは、伝えられることにも限りがある。もっと多くの人に炭鉱遺産の魅力を知ってもらう方法を模索していたとき、出会ったのがフットパスだった。フットパスとは、森林や田園地帯、古い街並みなど、地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことのできる道のこと。イギリスでは古くからフットパスの整備がされており、近年では日本でもコースマップづくりが盛んに行われている。早速、メンバーとコースを選定。「炭鉱の記憶」で旧産炭地の活性化を目指す北海道空知総合振興局や赤平市とともに、マップの制作や、昔の写真と解説を載せた看板設置などを進め、2010年秋に初の赤平フットパスを開催した。蓋を開けてみると、参加者は3日間で約150名。若者も多く、一眼レフカメラで熱心に撮影をする姿は、炭鉱遺産の持つ磁力の強さを確信するのに十分だった。2011年からは、6月から9月の第4日曜に開催。10月には8年ぶりとなる立坑ライトアップや、坑口浴場の公開

などを盛り込んだTANTanまつりも開催し、大きな話題を呼んだ。ちなみに13人いるメンバーのうち、5人は炭鉱と何の関わりもなかった人たちだ。「廃墟が好きで、写真の被写体として炭鉱遺産を撮っているうちに、メンバーと知り合った」加藤さん(写真右から2人目)もその一人。「皆さん、専門的なことだけじゃなく、当時の生活のことまで話してくれるので、僕のように何も知らない人でも楽しく聞ける。炭鉱の価値や文化を発信するTANTanの活動に、今ではすっかりはまっています」と笑う。

今後は「立坑ライトアップと花火をセットで行ったり、立坑を撮影した写真を集めて写真展を開催したり、夢は広がります」と三上さんは熱く語る。もちろん、炭鉱の記憶の継承も大事な役割。目の前にある風景は、ただそれだけを観るなら、ただの「もの」でしかない。しかし、その奥にある多くの物語を知ること、赤平の歴史のみならず、北海道という土地に生きる私たちの現在につながる、一筋の道を見出すことができるはず。赤平の語り部でありガイド役でもあるTANTan。彼らの活動から、今後も目が離せない。

information
赤平コミュニティガイドクラブ TANTan
お問い合わせ先:080-5586-3450(加藤)
dosacchi@ybb.ne.jp/zuriyaman@ezweb.ne.jp
<http://ja-jp.facebook.com/dosacchi>

2012年も定期的にフットパス開催予定! 詳細はWEBにて。
※開催日以外でも、申込をすればガイド可能。ぜひお電話を。

